



INTERNATIONAL
GYNECOLOGIC
CANCER SOCIETY



日本における患者参加の力と課題

The power and challenges
of patient participation in Japan

朝日新聞デジタル > 記事

医療・病気 健康・予防

apital ▶連載 ▶患者生きる

シリーズ：仲間と歩む

がんになつても(1) 「病院から逃げたい」治療に不安

伊藤綾 2016年8月29日06時00分



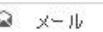
374



list



0



「車の両輪として、患者の権利擁護という視点が不可欠であると感じます」

7月初旬、東京都内であった厚生労働省のがんの診療体制に関する検討会の冒頭、血液がん「悪性リンパ腫」の患者会「グループ・ネクサス・ジャパン」理事長の天野慎介(あまのしんすけ)さん(42)が発言した。

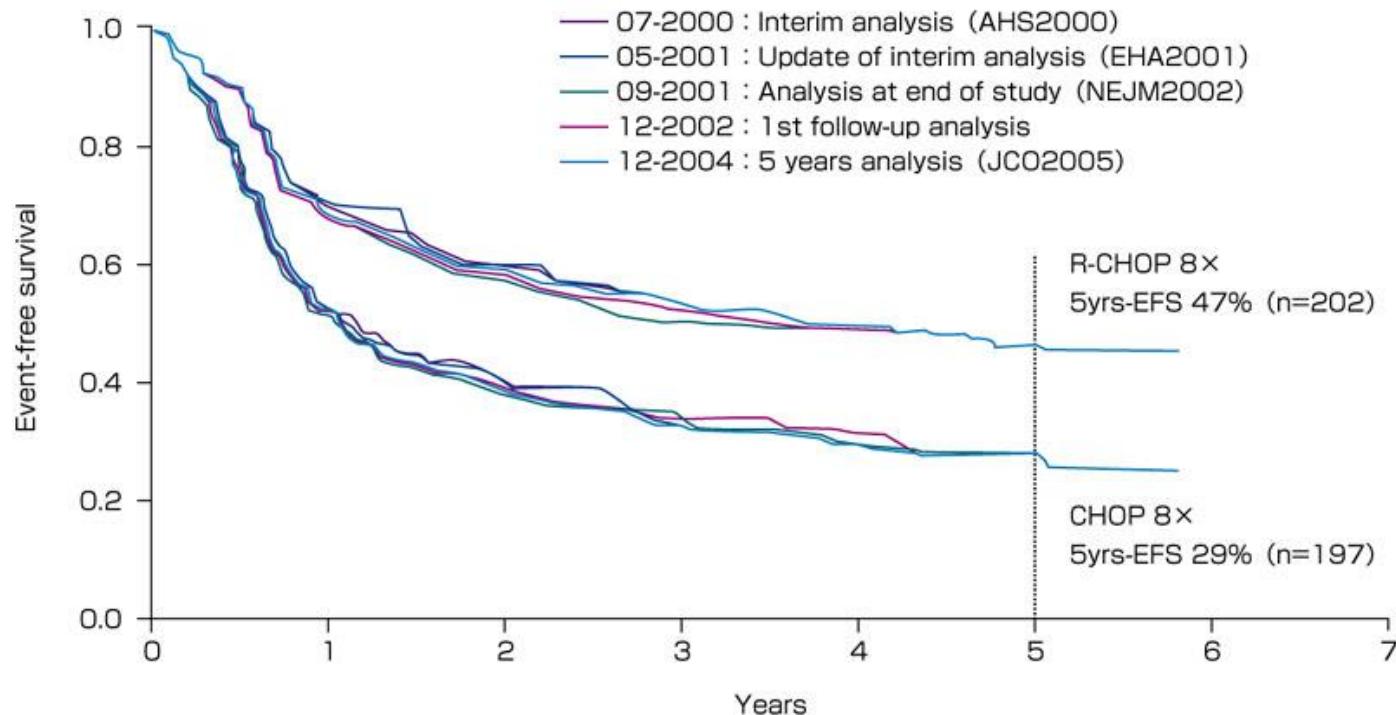
I was 27 years old in 2000. I had malignant lymphoma and received chemotherapy, radiotherapy, and hematopoietic stem cell transplant.

Source : the Asahi newspaper, August 29, 2016

Eriko Aotani Patient-Caregiver Symposium – Kyoto, Japan -- September 13, 2018

R-CHOP vs CHOP for Advanced stage DLBCL of 60 to 80 years

進行期DLBCL R-CHOP療法 vs CHOP療法 (60~80歳)



Source : Jyunji Suzumiya, Japanese Society of Medical Oncology (JSMO) 6th Annual Meeting

Eriko Aotani Patient-Caregiver Symposium – Kyoto, Japan -- September 13, 2018

IGCS

INTERNATIONAL
GYNECOLOGIC
CANCER SOCIETY

GYNECOLOGIC
CANCER INTERGROUP

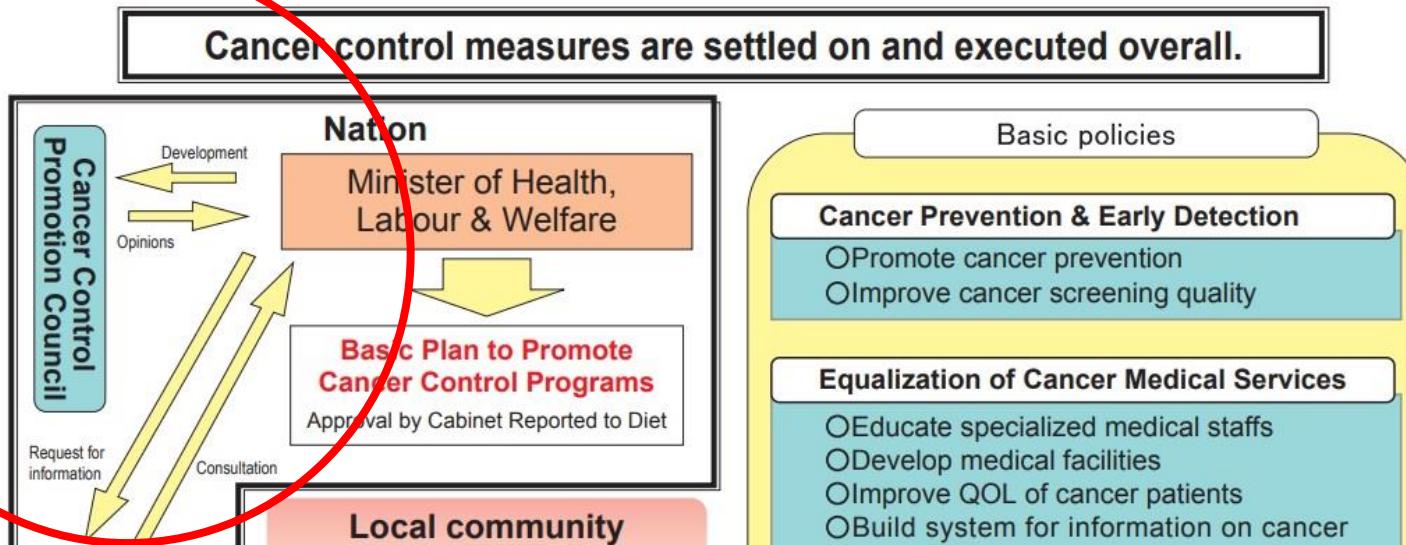
An Organization of International Cooperative Groups for Clinical Trials in Gynecologic Cancers

救える命を救うために For Save Lives that can be Saved



Eriko Aotani Patient-Caregiver Symposium – Kyoto, Japan -- September 13, 2018

がん対策基本法(2006年) Cancer Control Act (2006)



The National Basic Plan to promote Cancer Control Programs must reflect the opinion of cancer patients and their families as well as cancer medical specialists and academic experts.

Source : Ministry of Health, Labour and Welfare

Eriko Aotani Patient-Caregiver Symposium – Kyoto, Japan -- September 13, 2018

IGCS

INTERNATIONAL
GYNECOLOGIC
CANCER SOCIETY



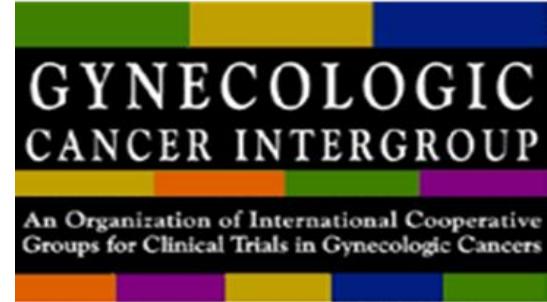
厚生労働省がん対策推進協議会 Cancer Control Promotion Council in MHLW



Eriko Aotani Patient-Caregiver Symposium – Kyoto, Japan -- September 13, 2018



INTERNATIONAL
GYNECOLOGIC
CANCER SOCIETY



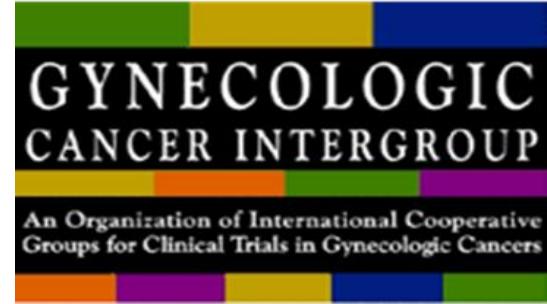
がん登録推進法(2013年) Act on Promotion of Cancer Registries (2013)



Eriko Aotani Patient-Caregiver Symposium – Kyoto, Japan -- September 13, 2018



INTERNATIONAL
GYNECOLOGIC
CANCER SOCIETY



がん対策基本法の改正(2016年) Amended Cancer Control Act (2016)

第19条第2項 前項の施策を講ずるに当たっては、罹患している者の少ないがん及び治癒が特に困難であるがんに係る研究の促進について必要な配慮がなされるものとする。

→ **希少がんと難治がんに対する研究の推進**

→ **To Promote the Research on Rare Cancer and Intractable Cancer**

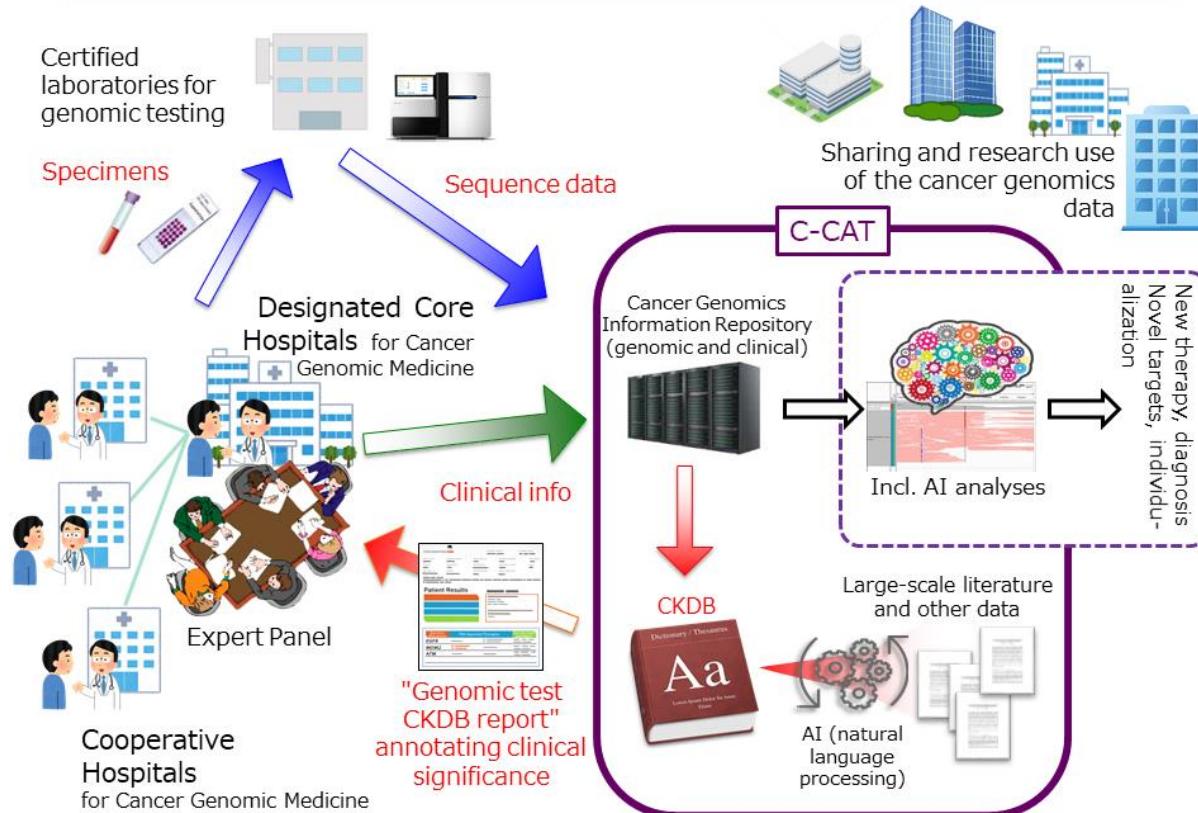
全国のがん患者団体からの要望を受けて加えられた条文

Article added under the request from nationwide cancer patient groups



Eriko Aotani Patient-Caregiver Symposium – Kyoto, Japan -- September 13, 2018

Center for Cancer Genomics and Advanced Therapeutics (C-CAT)



Source : National Cancer Center, June 1, 2018

Eriko Aotani Patient-Caregiver Symposium – Kyoto, Japan -- September 13, 2018



INTERNATIONAL
GYNECOLOGIC
CANCER SOCIETY

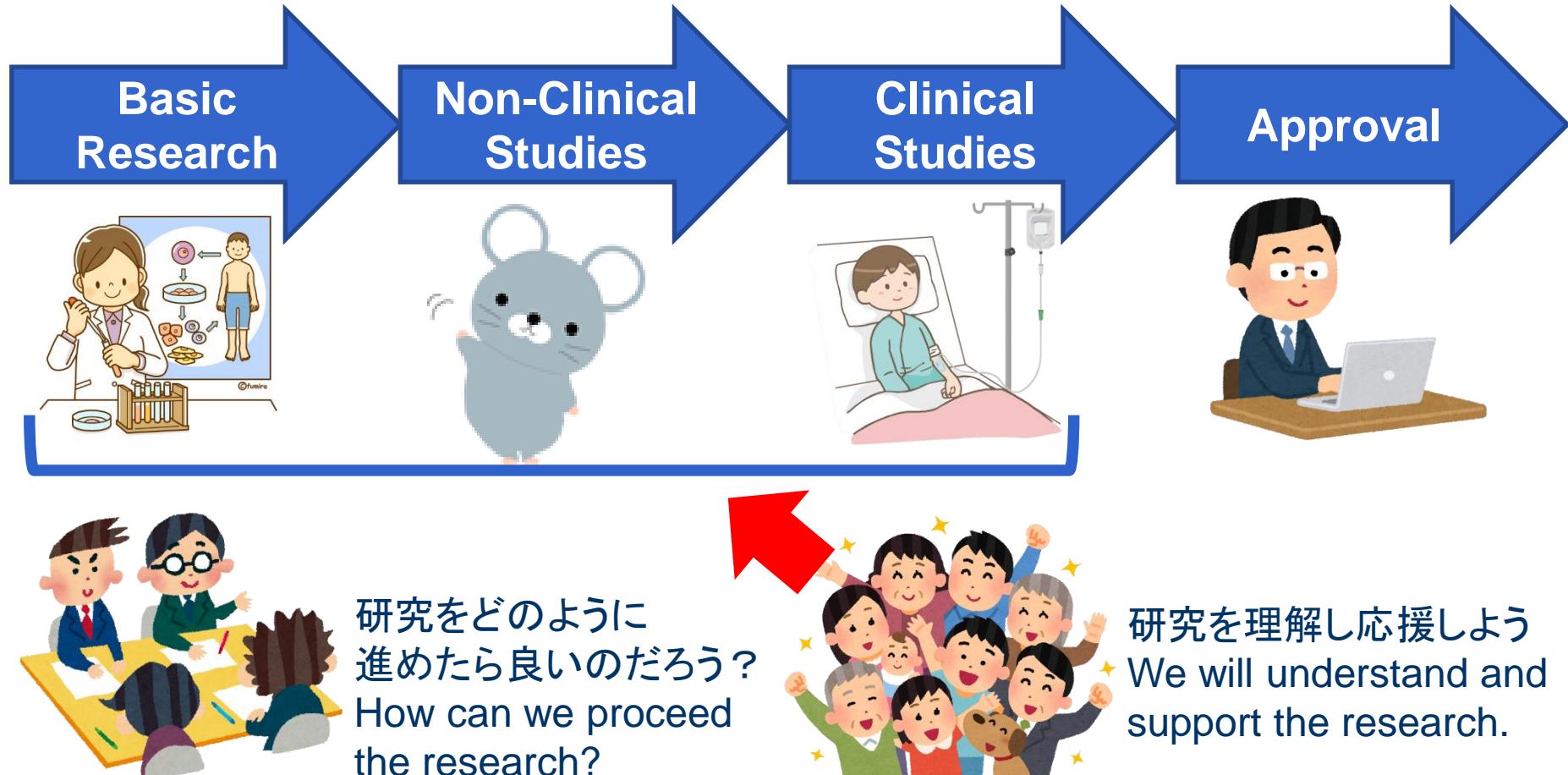


国の第3期がん対策推進基本計画(2018年)

The 3rd National Basic Plan to promote Cancer Control Programs (2018)

AMEDは、海外の研究体制と同様、我が国でも患者やがん経験者が研究のデザインや評価に参画できる体制を構築するため、平成 30（2018）年度より、患者及びがん経験者の参画によって、がん研究を推進するための取組を開始する。また、国は、研究の計画立案と評価に参画可能な患者を教育するためのプログラムの策定を開始する。

As with the overseas research system, in order to establish a system that cancer patients can participate in research design and evaluation in Japan, from 2018, AMED(Agency for Medical Research and Development) will begin the measures to promote cancer research by the participation of cancer patients. And the government will begin formulating the program to educate the patients who can participate in research planning and evaluation.





臨床試験に参加するには How can we participate clinical studies?

がん情報センター ganjoho.jp 一般の方向けサイト

患者様やご家族などへの方向け検索・治療情報サイト
臨床研究情報ポータルサイト

国立保健医療科学院 文字サイズ 項目 大きく ENGLISH

患者様・ご家族などへの方向け 治療情報の方向け

こちらのサイトでは 病名や薬の名前などの入力で
日本で実施している
病気の解説
一般的な
治療法
海外の研究や
治療法

この情報をお調べすることができます。

このポータルサイトは、患者さんや一般の方々および医療関係者・研究者への情報提供のために、日本で行われている臨床研究(試験)の情報を検索できるサイトです。そのほか、病気の解説や治療法、海外の治療法や治療情報もご提供しています。
このポータルサイトは、国立保健医療科学院が運営しています。

臨床研究情報ポータルサイトよりお知らせ

● 2016年3月28日 *ご利用にあたって* 病名などを下の検索窓に入力してください。その前に問題がある
解説・治療法や治療情報を一度調べることができます。(それぞれのタブをクリックしてご覧ください)

フリーワード検索

部位や病名、薬の名前などから検索が可能です。

検索する クリップした情報 (0件)

臨床研究について

はじめにお読みください。
当ポータルサイトを患者さんやご家族の方に分かりやすくご利用いただきたためのご説明です。

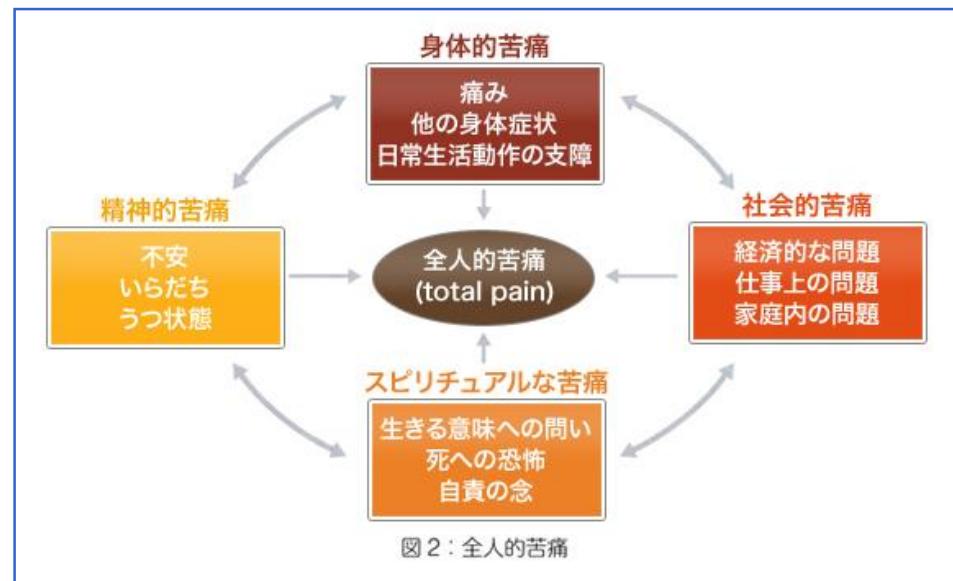
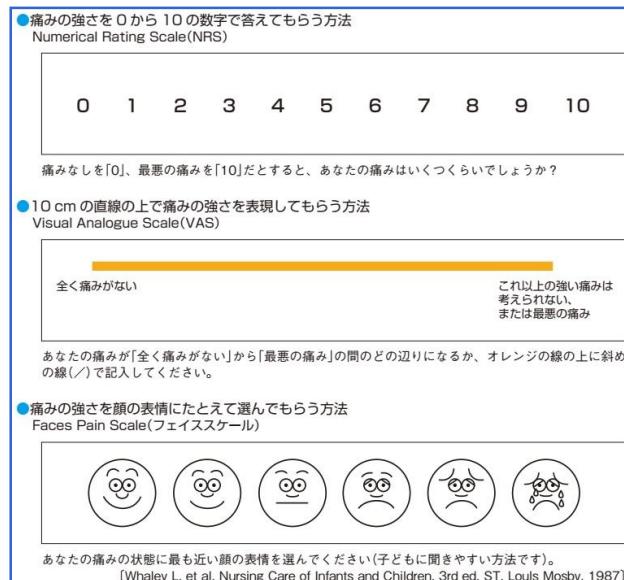
National Cancer Center

National Institute of Public Health

Eriko Aotani Patient-Caregiver Symposium – Kyoto, Japan -- September 13, 2018

A PRO is a measurement based on a report that comes from the patient (i.e., study subject) about the status of a patient's health condition without amendment or interpretation of the patient's report by a clinician or anyone else. (FDA)

PROとは、患者の回答について、臨床医や他の誰の解釈も介さず、患者から直接得られる患者の健康状態に関する全ての報告である(米国FDA)





INTERNATIONAL
GYNECOLOGIC
CANCER SOCIETY

JCOG
Japan Clinical Oncology Group

JCOG (日本臨床腫瘍研究グループ)は、国立がん研究センター研究支援センターが直轄支援する多施設共同臨床研究グループです。

お問い合わせ | アクセス | 求人情報 | サイトマップ | English | Googleでサイト内検索

がん治療の進歩のために

一般の皆さん・患者さんはこちら 研究者・医療関係者の皆さんはこちら

JCOGが行っている臨床試験の情報を公開しています。各種手引き・資料・教材をご覧いただけます。

試験一覧

がん治療開発マップ

一般の皆さん・患者さん 研究者・医療関係者の皆さん

認証付きコンテンツへのアクセス方法

患者さんのプライバシー情報について

個人情報の取扱いに関するお知らせ

トピックス

データセンター/運営事務局では、スタッフを募集しています

2018.1.31

- JCOG学会発表情報 (JCOG研究に関する発表が予定されている学年です)
 - The 2018 Annual EAU Congress 2018/3/16~3/20
 - JCOG1110AS4 (泌尿器科腫瘍グループ / 須口源一先生 九州大学)
- 1月12日より乳がんグループの新規試験 JCOG1602の登録が開始されました

2018.1.19

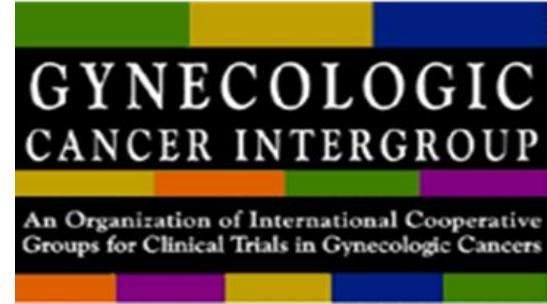
- 回線工事によるWebシステム一時停止のお知らせ[1/21(日)AM6:30~AM7:30]

2018.1.17

- 「治療開発マップ」ページを更新しました。

2017.12.28

- 由 次回がんグループJCOG0910の結果が掲載されました



対象 病期	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	適応外 薬
限 局 期	全リスク	R-CHOP(3コース)+領域照射 R-CHOP(6~8コース)	JCOG0601 R-CHOP+RW+CHOPのランダム化第II相試験 : 2014/12→2017/12	ABC DLBCLCに対するR-CHOP+ノンレジラーミドランダム化第I相試験 (セルシーン)
	低リスク	R-CHOP(6~8コース)	IVLBCLCに対するR-CHOP+HD-MTX 第II相試験 (IVL研究会)	Non-GCB DLBCLに対するR-CHOP+ノンレジラーミドランダム化第II相試験 (ヤンゼン)
	低中リスク		CGS+DLBCLCに対するR-CHOP+DA-EPOCH-R+HD-MTX 第II相試験 (AMED山口県)	70歳未満 R-CHOP+R-THP-COPのランダム化第II-III相試験 (岐阜大学)
	中高リスク		JCOG0908 自家末梢血幹細胞移植ランダム化第II相試験 2015/2→2025/2	JSC-T-NHL10 中期PET 厚別化研究 JSCT研究会
初 発	高リスク			Non-GCB DLBCL 肝中心B細胞以外のB細胞リンパ腫
進行 期				
			救援化療法および自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法	
再発	全病期/全リスク			

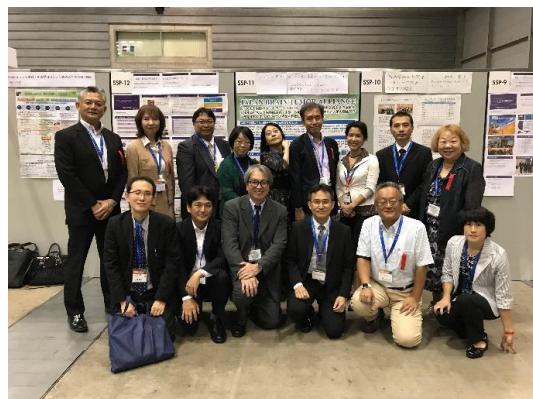
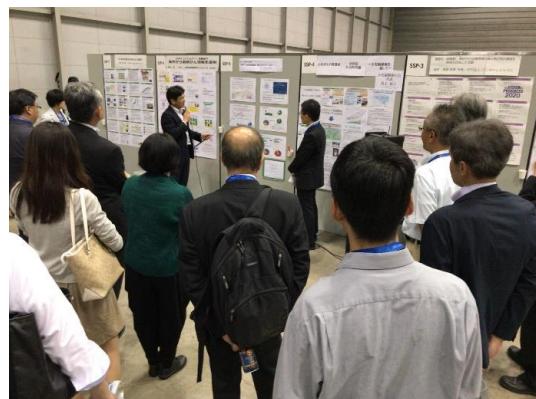
R-CHOP (リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキソルビシン、ビンクリスチン、ブレドニゾロン)
領域照射：治療前に病変があった領域のみに照射する方法
中期 PET：治療中間にPETによる画像診断。Non-GCB DLBCL：肝中心B細胞以外のB細胞リンパ腫

いくつかのがんの臨床研究グループにおいて、臨床試験のデザインや評価項目について研究者と患者が話し合うことが始まっている。
 In several cancer clinical research groups, researchers and patients are discussing the design and evaluation items of clinical trials.



INTERNATIONAL
GYNECOLOGIC
CANCER SOCIETY

日本癌学会学術総会 SSP(サバイバー・科学者プログラム)
Japanese Cancer Association “Scientist↔Survivor Program”

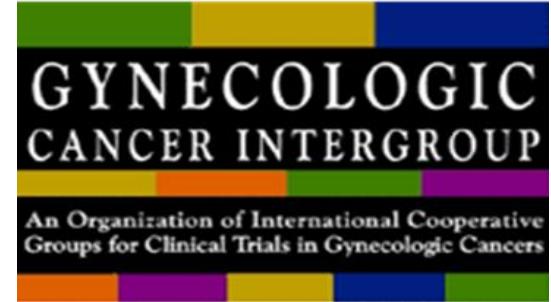


Eriko Aotani Patient-Caregiver Symposium – Kyoto, Japan -- September 13, 2018





INTERNATIONAL
GYNECOLOGIC
CANCER SOCIETY



全国がん患者団体連合会 がん患者学会

Japan Federation of Cancer Patient Groups “Cancer Patients Study Meeting”

全国よりがん患者団体が参加し、がんゲノム医療の基礎と臨床試験について学んだ
Cancer patient groups nationwide participated and learned about the basis of cancer
genomic medicine and its clinical trials.



Eriko Aotani Patient-Caregiver Symposium – Kyoto, Japan -- September 13, 2018



INTERNATIONAL
GYNECOLOGIC
CANCER SOCIETY

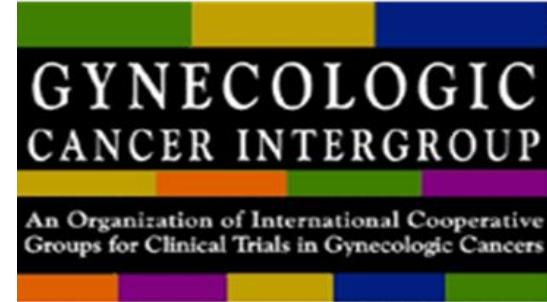
企業、患者さんとの協働で希少がんの個別化ゲノム医療を実現
国立がん研究センターと日本希少がん患者会ネットワーク
MASTER KEYプロジェクトでの連携協定締結

2018年8月23日

国立研究開発法人国立がん研究センター
一般社団法人日本希少がん患者会ネットワーク

国立研究開発法人国立がん研究センター（理事長：中釜 斎／所在地：東京都中央区）と一般社団法人日本希少がん患者会ネットワーク（理事長：眞島 喜幸／所在地：東京都千代田区）は、希少がんの新規治療開発およびゲノム医療を推進するMASTER KEYプロジェクトにおける連携協定を8月23日付で締結しました。

MASTER KEYプロジェクトは、2017年5月より中央病院（病院長：西田 俊朗）にて開始した产学共同プロジェクトで、希少がんのレジストリ（疾患登録）研究とバスケット試験から構成されます。レジストリ研究では、希少がん患者さんの診療情報やそれぞれのがんが有する遺伝子異常の情報、治療の効果を含む網羅的なデータベースを構築することを目的としています。また、バスケット試験とは、標的とする遺伝子変異のある希少がんを有する患者さんであれば、がんの種



➤ 国立がん研究センターだ
より

➤ 各種受賞

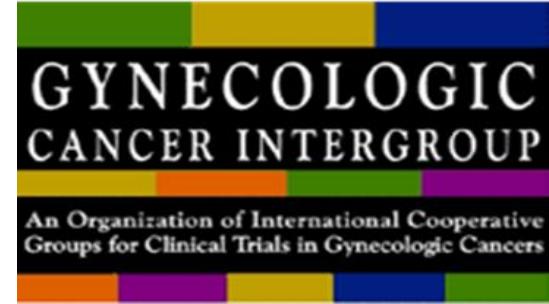
National Cancer Center and Rare Cancers Japan signed a collaborative agreement for developing new drugs for rare cancer.

Source : National Cancer Center, August 23, 2018

Eriko Aotani Patient-Caregiver Symposium – Kyoto, Japan -- September 13, 2018



INTERNATIONAL
GYNECOLOGIC
CANCER SOCIETY



中山伸弥教授は「研究所の9割以上が非正規雇用」として寄付を求めており、iPS細胞に関する研究でノーベル生理学・医学賞を受賞した中山教授が自ら寄付を呼びかける事実に驚く人もいた。

Professor Yamanaka said that Over 90% of laboratory staff is a non-regular employment and calls for donation. Some people were surprised at the fact that professor Yamanaka who received the Nobel Prize in Physiology or Medicine for his research on iPS cells himself calls for donation.

YAHOO! JAPAN ネット募金 IDでもっと便利に新規登録 ログイン ソフトバンクスマホ契約で15,000ポイント!

プロジェクト検索 詞語のキーワード 災害 動物

ネット募金トップ > 難病やケガで苦しむ人々を救いたい。中山伸弥所長率いる京都大学iPS細胞研究所に安定した研究環境を!

難病やケガで苦しむ人々を救いたい。
中山伸弥所長率いる京都大学iPS細胞研究所に安定した研究環境を!

医療・福祉

京都大学iPS細胞研究所 所長・教授 山中伸弥

寄付総額（概算） 22,890,941円
寄付人数 76,087人
寄付する

現在の継続寄付人数：689人
毎月の継続的な応援が大きなええになります。

T-POINT
Tポイントを使ってTポイントから寄付できます。

VISA
MasterCard
JCB
American Express

※寄付をするにはYahoo! JAPAN ID(会員登録・無料)が必要です。
※Tポイントで寄付をするには、ご利用可能なTポイント残高のあるYahoo! JAPAN IDでのログインが必要です。

概要 活動情報 2018年1月23日 更新

中山教授、別大マラソンで自己ベスト 3時間25分

2018年2月4日18時24分

シェア 2695 ツイート 11st BIブックマーク 16 メール 印刷

4日に行われた別府大分毎日マラソンに、ノーベル医学生理学賞受賞者で京都大学iPS細胞研究所所長の中山伸弥教授（55）が参加し、3時間25分20秒の2430位で完走。自己記録を2分以上更新する走りを披露した。

中山教授が出場したのはカテゴリー4（持ちタイム3時間～3時間半）というクラス。昨年2月の京都マラソンを3時間27分45秒で走り、出場条件をクリアしていた。